

→ 野望から暴走へ

1、《政党政治への敵愾心》

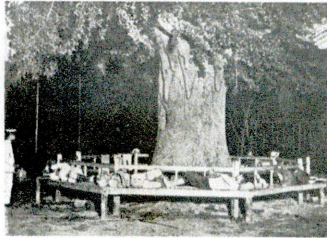
- (国内)
- ・1930(S5) 浜口雄幸首相 狙撃
 - ・1932(S7) 5・15事件 犬養 毅首相 殺害
 - 1936(S11) 2・26事件 首都占拠

《昭和維新》

2、1931(昭和6)満州事変

- (中国)
- ※ 軍・中央の不拡大方針を無視
 - ・1932(昭和7)満州国建国
 - 1937(昭和12) 日中戦争開始

(昭和4～10年)



帰農者の野宿



欠食児童

東北では木の皮を

- ・昭和5年 / 産業別就業人口 **47%農業**
- ・農村は兵隊の**最大供給地**

※ 農村の疲弊

- 軍
- ・“東北農村の窮状を救え！”
 - ・“肥える財閥に鉄杖を！”



※ 国民の支持 → 軍の台頭へ
(昭和維新)

【農村更生運動】 → 打開策 **満蒙移民の割り当て**
(自力更生)

《満洲》

- ・満州56%は未開地
- ・農産物13億円 → 30億円に
- ・輸入品は満州で調達可能

→ “夢の大地” / 満洲へ

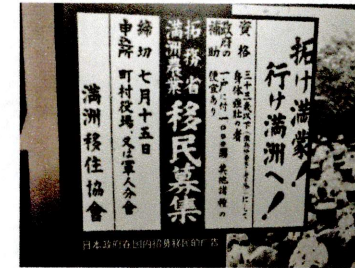
(移民/「分村移民」には村予算の1.5倍/奨励金)

“乗り遅れるな”(満洲へ)

(2) 「昭和農村大恐慌」

- 1、絹(輸出総額の25%)の激減
(昭和4・22億円 ⇒ 昭和6・12億円)
- 2、都市失業率15% 帰農土地なし
- 3、昭和5年 豊作飢きん(米価暴落)
- 4、昭和6年 9年の水害・冷害・凶作
- 5、高年貢変わらず 小作争議の頻発
欠食児童(20万人) 娘の身売り
⇒ 「農村厚生運動」へ

(昭和4年～10年)



行け満洲へ！

《昭和初期の国内状況 四十年》

【満州】への期待

《1、農村の疲弊》

- 昭和農村大恐慌 -

(農村救済)
満州への移民熱
(満蒙開拓団)

《2、軍隊の野望》

- 3権益の危機! -

(3権益確保のため)
満州国の建国
(経営要員・対ソ防衛)

(3) 満州への進出(侵略)を

支持・推進した**国家体制**

- ① 労働組合
- ② 教育・思想・文化状況
- ③ 新聞・ラジオ

(国民の心)

- ・教育勅語
- ・治安維持法
- ・戦陣訓



① 労働組合の戦争協力化



「一億一心」
「華国一致」

- ・1937(昭和12)
- ・ストの自粛
- ・戦争支持

② 教育・思想・文化統制の強化

・土門 拳



(昭和13年)

・木村伊兵衛

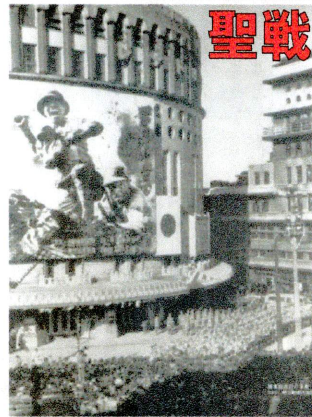
1890(明治23)教育勅語
1925(大正14)治安維持法

1931(昭和6)満州事変
1932(昭和7)満州国建国

1933(昭和8)長野県下 赤化教員検挙
・清川教授追放(自由主義・学問弾圧)
・ススススメヘタイスス

1934(昭和9)文部省 思想局設置
1935(昭和10)赤旗停刊

③ 新聞・ラジオの戦争協力化



聖戦

1932(S7)商業紙132社
満洲国建国支持の「共同宣言」
戦意高揚こそ「報道の任務」
(軍中央と新聞社幹部の癒着)
(検閲/自粛/嘘/美化)
百量数のポスター(東京有楽町)
(決戦標語) 戦時国債
「国難来る! 撃ちてしまわ!」

《真実を伝えない「うそ」報道に

南京陥落
全国10万人
提灯行列



- 国民は歓喜熱狂 -



「新聞はビジネス」
部数を伸ばす

「メディアが狂うと国民が狂う」

◆南京大虐殺事件(S12年12月)

国防婦人会等 国防献金 慰問袋

「皇軍を称える歌」募集
3万6千編応募



1928(S3/2/1) 発刊〜35(S10) 185号停刊

弾圧に抗した赤旗 (せつき)

米倉喬加年「暗い道の行く手を照らすともしび」

1932(S7)商業紙 132社
満洲国建国支持の「共同宣言」《新聞紙条例》
戦争協力体制の強化

1931(S6)赤旗「日本帝国主義の戦争準備と闘へ」
「一銭の戦費も出さな・一人の兵士も送るな」

・満洲通信(特別通信員)

憲兵による捕虜虐殺・放火・暴行をルポ

2. 満蒙開拓青少年義勇軍

—「鉄の戦士」— (8万6千人)
くわのせんし

任務は何だったのか



(昭和16年〜 ア・太平洋戦争)

※ 農村からの一般移民減少

「軍」と「開拓団」の (貧困からの次三男対策でも)
補充要員として
(8万6千人送出)



発足 昭和13年

茨城水戸内原訓練所《日輪舎》加藤 完治所長

15〜19歳、3ヶ月⇒満洲へ

県・学校に厳しい人数割り当て 送出



送 8万6千5百人



死者2万4千200人(28%)
(昭和13年発足) 五次まで

茨城水戸内原訓練所全景(日輪舎)

極貧から逃れて
希望の満洲へ!



常時3000人以上 / 所長 加藤完治

◆ 内原訓練所 / 入所数 満州への送出数

入所9万6千人 送出8万6千人(90%)

年度	入所数	送出数	送出%	年度	入所数	送出数	送出%
昭和13年	24,365	21,999	90	昭和17年	12,531	11,792	94
昭和14年	9,508	8,887	93	昭和18年	11,510	10,658	93
昭和15年	9,591	8,922	93	昭和19年	11,610	7,799	67
昭和16年	13,335	12,622	95	昭和20年	3,848	3,818	99
※資料 全国拓友協会				合計	96,328	86,530	90%



歩哨に立つ少年

《満洲》 3年間(5ヶ所)

(修身・農業・軍事訓練)

ソ連国境の
開拓団へ配属

(最大の目的)
「「有時」(対ソ戦)に備える」

訓練所生活=軍の内務班
(屯墾病1割帰国)



(右手に劔 左手に銃)
国難に殉ずる大和魂

女【興亜少女隊】「早く嫁が欲しい」



「満蒙開拓女塾」



《大陸の花嫁》
百万人計画



「寮母先生」として

「少女が大陸に嫁げ」-歌・ポスター-

・1933(昭和8)〜

【女子報国挺身隊】

・1944(昭和19)〜

(満州へも)



3, 満蒙開拓団

(18万5千人)

(国策移民)の送出



須田一家

《吉林省》

(関東軍将校 群馬)



東宮鐵男

(かねお)

※ 満蒙開拓(移民)スローガン

①「満蒙は日本の生命線」

「興亜の礎足らん」

「いざ、満蒙へ！」

「中国・満洲・蒙古・朝鮮・日本」

(小沢開作) 「五族協和」

(正義・寛容・道義による政治) 「王道楽土」

「満蒙開拓団」約27万人

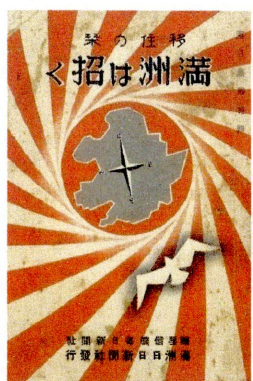
②「大東亜建設」(欧米の植民地からアジア民族の開放)

【満蒙は日本の生命線】

(侵略戦争スローガン) - 松岡洋右 -

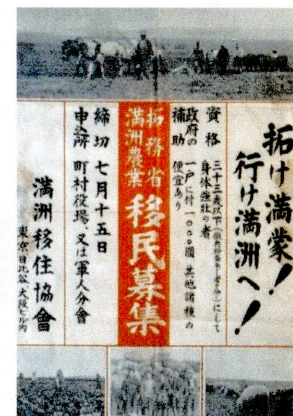
(三つの生命線)

- ① 南下するソ連への防波堤(満蒙)
- ② 食料・物資の調達地(満蒙)
- ③ 農村からの移民先(満蒙)



「移民の葉満洲は招く」

(昭和11年11月1日発行)



●移民募集ポスター

昭和12年(日中戦争勃発)と同時に
(20年間に・昭和32年までに)

「100万戸、500万人」移民計画

(農家戸数の2割 / 5000万人の1割)

昭和12~16年 本格移民/最盛期

(昭和17~20年/減少)

須田一家/15年12月渡満

開拓団 18万5千人

◆開拓団の任務

- ① 軍と内地への食料供給
- ② 満州の経営要員
- ③ 軍と国のねらいは、ソ連国境に「人間の壁」配置

・初期/農村救済(農村)⇒後期/満洲経営(都市/転職者)

全国から送出された開拓団



長野3万8千人/12%

- ①生糸 ②信濃教育会
- ③推進者/中心人物が多く

- 1位・長野
- 2位・山形
- 3位・熊本
- 4位・福島
- 5位・新潟
- 6位・宮城
- 7位・岐阜

満蒙開拓平和祈念館(長野阿智村)

(研修セミナー棟)



長野県送出数 3万8千人

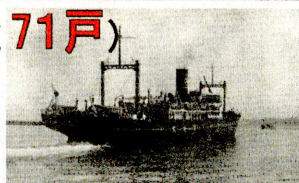
◆新潟県5位(65開拓団)

(最終20年5月26次 71戸)

(全国比 4、3%)

1万2千651名

(死者4,980人=40%)



・開拓団数 9,361人
・義勇軍数 3,290人
・戸数 4,345戸

昭和13年「新潟港」主要送出港に指定

(新潟・秋田・下関) (満州への表玄関) (上野~新潟~羅津~新京)

16万人(6割)/27万人

S6上越線開通

「西山旅館・新潟満蒙開拓館」300人 26室「〇満蒙草の人々が」

「東北・長野に比して物足らぬ」
「他県に対して極めて熱意なし」

新潟県移民進まず!

(新潟県の充足率
- 昭和14年 ~
30~40%)

昭和15年 10%
(法坂部落 初の移民 須田一家)

106~6次(昭和12)五福堂開拓団
100~7次(昭和13)清和開拓団
30~40% 8次(昭和14~)

土の戦士を送る歌 (昭和14 本橋 敏 新潟新聞社)

- 1 お国をあとに はるばると
あの大陸に 船出する
土の戦士を 送る日に
港新潟心から
あなたの幸を 祈ります
- 2 あなたの行途 ああ空に
輝く旗は 日の御旗
五色の旗も もろともに
遠い地平に 野の風に
土の誇りを 呼ぶでしょう
- 3 遅てなくひろい ああ土に
希望の線を 下ろすとき
ゆかしい蘭の 香をそえて
大和桜の まごころが
あなたの胸に 咲くでしょう
- 4 あなたの胸に 燃える血は
のぼる朝日の 茜色
その魂で どこまでも
大地に生きる 根強さが
アジアを興す 力です
- 5 土の戦士よ いざさらば
この新潟の お別れに
生まれ故郷の 日本の
色と匂いと 想い出を
船路の夢に 贈ります
- 6 土の戦士よ さようなら
越路の山も この海も
双手をあげて 声あげて
伸びる日本を 負うて往く
あなたの幸を 祈ります

前半終了です。少しお休みしましょう。



福島/喜多方 須田一彦